

# 令和7年度 すくわくプログラム：足立区立東綾瀬保育園

## テーマ：「身近なものとの関わり」

### 子どもたちの姿からテーマを決めました

陽当たりのよい園庭や園舎内の好きなどころで、子どもたちは身近なものとのふれあいの中で様々なことを感じたり考えたり試したりを繰り返しながら遊んでいる。子ども一人一人の年齢発達に合わせて保育者が気づきや発見を受け止め、共感していくことでさらに興味関心を深め、子どもたちの探究心を育てていくことを期待できる。

つぶやきや発見につなげたい！！

### 保育者の関わり

#### 各クラスの活動・環境づくり

##### 2歳児りんご組：霧吹き遊び

- ・これどうやって使うの？
- ・手にとってにぎってみたが水が出てこない

##### 環境設定

色付きテーブル、霧吹き

- ・霧吹きの使い方がわからずにいたが、周りの子がどうやっているかを見ていたのですぐには使い方を伝えず見守った。
- ・テーブルに置きながらレバーを引く方法を伝えるとなんとなくわかり何度も試していくうちに扱い方も上手になっていった。

##### 3歳児ばなな組：色水遊び

- ・夏にアサガオの花を使った色水作りをしている

##### 環境設定

- ・クレープ紙、京花紙、小さいペットボトルを十分に用意する。
- ・作った色水を飾り、子どもたちが手にとって見比べられるようにする。

- ・用意したクレープ紙、京花紙の中でも色が出るものとそうでないもの、同じ色のクレープ紙でも1回使ったものを再び色水作りに使ったときの色の濃さの違いに気がついて遊んでいた。
- ・作った色水を小さなペットボトルに自分たちで入れ、並べて色を比べる姿もあった。用意した容器のほかにも製作コーナーにあった透明なコップやストローを使って遊んでいた。

##### 4歳児ぶどう組：泡遊び

- ・石けんをたくさん削るのを楽しむ子、泡を作るのを楽しむ子、色を変化させるのを楽しむ子など自分なりの楽しみ方をしている。

##### 環境設定

- ・園庭外水道付近にテーブル、ボウル、石けん、泡だて器、おろし金を用意する。
- ・保育者も一緒に楽しみながら遊び方を知らせていく。

- ・おろし金を使って保育者も一緒に遊んでいると「これおばあちゃんがやった」「ママもやった」と家庭で見たことがあると話していたので、子どもの話に共感した。
- ・色水に泡を入れてみると泡の色が変化することに気づき発見を喜んでた。友達の様子を見て、ほかの子もやりたいという姿も見られたので、道具の数を増やしたり、おろし金で石けんをでこする子と泡立てる子を分けたりして、じっくりと遊べるスペースを作った。

##### 5歳児めろん組：大型積み木を使った遊び

- ・お店屋さんごっこをやりたい！ 大型積み木やさまざまなものを使いながらどうやろう？

##### 環境設定

- ・大型積み木を使って遊びが広がっていきやすいよう場所の確保をする。
- ・板、布、段ボール、洗濯ばさみなどを大型積み木近くの手に取りやすい位置に用意しておく。

- ・子どもたちの興味関心、一人ひとりの発想を大切にしながら寄り添っていき、何を経験につなげたいか、試行錯誤するうえでどうしたらいいか対話を通して見守ったり、自ら考えられるよう提言、助言をしたりして子どもたちがいろいろと試すことができるようになり、遊びが広がっていった。

## 子どもたちの気付きから

## 活動の振り返り



### 2歳児りんご組：霧吹き遊び

- ・園庭で使うテーブルが色付きだったこともあり、霧の跡がついたことで「できた」と実感し、濡れていないところを移動しながら霧吹きを楽しんでいた。保育者が想定していない行動だったので、霧の跡が残るテーブルの用意などの準備も大切だと感じた。
- ・霧吹きが使えるようになると自分の手足にかけたり、空に向かって吹きかけて自分の顔にかかることを喜んだりしながら楽しいと感じながら自発的に試していた。保育者に教えてもらったやり方だけではなく、遊びながら自分のやりやすい方法を見つけていると感じた。

### 3歳児ばなな組：色水遊び

- ・色水作りのできる素材や用具を設定したが、子どもたちは保育者のイメージしていた使い方ではない方法で色水作りを楽しみ、色の違いを比べたり、出来上がった色を自分の知っているものや言葉で表現したりしていた。

### 4歳児ぶどう組：泡遊び

- ・実際に自分で体験することにより、子どもたち自身が気づき発見する姿があった。
- ・子どもが試してみたい、やってみたい時に保育者がタイミングよく対応できると、子どもたちの探究心ややってみたいにさらにつながるのでないかと感じた。
- ・子どもたちがワクワクするやってみたい環境を作ること、保育者が子どもたちと一緒に楽しむことが大切なのではないかと感じている。

### 5歳児めろん組：大型積み木を使った遊び

- ・子どもたちが何をしたいのか、どういう思いなのか一人ひとりの思いを聞きながら何を大切にしたいのか、何を経験してほしいのかを共に考えていくことが大切だと感じた。
- ・子ども理解をしながら共感需要をいき、提案や助言をしていきながら試行錯誤や遊びの再構築ができるよう保育者も関わっていくことで子どもたちがイメージしたものへの実現にもつながり、遊びが広がっていくようになった。

## 次につなげていきたい！

### 2歳児りんご組

子どもが楽しいと感じることで不思議に思ったり試してみたりしたくなるので、子どもの興味を引き出せる環境づくりや子どもと一緒に遊びながら子どもの気づきやつぶやきを聞いていきたい。

### 3歳児ばなな組

子どもたちのやってみたい、試してみたいという探究心を高めるには、子どもたちを取り巻く用具や教材などの環境設定、またそれらと子どもたちが出会う時に保育者がどう関わるかが大切であるということ学んだ。引き続き職員間で連携をとりながら保育をすすめていきたい。

### 4歳児ぶどう組

取り組む中でテーマにこだわりすぎるのではなく、保育者も子どもと一緒に遊ぶ中でどのような環境や関わりが必要なのかを子どもの姿を通しさまざまな角度から見ていきたい。

### 5歳児めろん組

子どもたちが自ら考え試したり、協力し合ったりする力を育む中で、保育者は一人ひとりの思いに寄り添い応答的な関わりや提案・助言をしていく。この関わりを通して子どもたちが多様な経験を重ね、友達とイメージを共有しながら遊びを広げていく楽しさを味わえるようにしたい。

